

令和 2 年 5 月 11 日現在

機関番号：25201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02837

研究課題名(和文) 前近代日朝関係における「訳官使」の基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research of "Yakkan-shi (Joseon's diplomatic mission to Tsushima)" between Japan and Korea in the early modern period

研究代表者

石田 徹 (ISHIDA, Toru)

島根県立大学・総合政策学部・准教授

研究者番号：90386524

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では「訳官使」をめぐる以下の4点を明らかにした。訳官使接遇時の動員体制・対馬藩からの指示内容・手当給付内容、各接遇行事の名称変遷過程とその画期が延宝年間(1673～81)にあること、訳官使接遇規定の画期が宝永年間(1704～11)にあると考えられること、対馬では日朝が対等の「交隣」関係であるという「建前」的認識と同時に、実際は日本側が6、朝鮮側が4で日本が上という認識を抱いていたということ。

他方、これらはまだ「訳官使」をめぐる諸事実の一端に過ぎず、膨大な史料群の分析は今後も継続し、対馬宗家文書の他の史料群などを用いる多角的検証を行って訳官使の「全体像」把握を目指す必要がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、従来関心の高かった日本(徳川将軍)と朝鮮(朝鮮国王)との間の「通信使」ではなく、これまであまり注目されなかった日本(対馬宗氏)と朝鮮(礼曹・東萊府)との間の「訳官使」をめぐる実態(諸規定、日朝相互認識など)を明らかにすべく、まず基本史料たる「対馬宗家文書」所蔵の「訳官記録」の調査収集を全うした。

次いで、訳官使から窺える基礎的な事実(とりわけ対馬朝鮮関係)の実態分析を進めた。膨大な史料群のため全容解明にはなお時間を要するが、前近代の日朝関係のあり方は近代以降の日朝(日韓)関係や相互認識に直結しており、その実態解明は現在の日韓関係を理解する一助となるものである。

研究成果の概要(英文)：In this research, the following four points are made clear as regard to the Yakkan-shi (Joseon's diplomatic mission to the Tsushima domain). 1) How they are received in Tsushima. The details of the directions from the Tsushima domain, and the specifics of the allowances provided. 2) The names of the reception functions were changed during the Empo era (1673-1681) and this era marked a breakpoint. 3) The breakpoint of the rules for the reception of Yakkan-shi is considered to be the Hoei era (1704-1711). 4) While Tsushima's public stance toward Japanese-Korean relationship was that of "Gyorin (equal and neighbourly relation)", in reality they considered that Japan was superior to Korea by six to four.

Yet these are still only partial facts surrounding Yakkan-shi, and it is necessary to continue the multifaceted analysis of a massive body of historical materials (the Tsushima SO Family Documents and so on), and to attempt to grasp the 'whole picture' of Yakkan-shi.

研究分野：日朝関係史 日本政治史

キーワード：日朝関係 対馬 朝鮮 訳官使 問慰行 相互認識

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、本研究開始まで 1840 年代から 1875 年 9 月までの日朝外交について、とくに明治維新後の日朝国交樹立に向けた交渉を中心に研究を進めてきた。その成果が博士論文「近代移行期における日朝関係刷新交渉の研究」であり、『近代移行期の日朝関係』(溪水社)であった。

こうした研究を進める中で、近代移行期の日朝関係、ならびに日朝の相互認識を考える上では対馬藩(以下、対馬)と朝鮮との関係が決定的に重要であるということを改めて確認し、同時に、対馬と朝鮮との関係を見る上では「訳官使」という使節が重要な鍵を握っているのではないかという見解に至った。「訳官使」とは、朝鮮王朝の日本語通訳官が正使となって対馬に派遣される使節のことで、韓国では「問慰行」などとも呼ばれている。総勢 40~100 人余りの一行で、江戸時代を通じて少なくとも 57 回は派遣されていた。

本研究開始以前は、まだ日本で「訳官使」研究がそれほど活発ではなく、概括的な記述は散見されるものの、中心的研究対象としては扱われていなかった(なお、本研究開始後に訳官使研究が活発化して現在に至っている)。

### 2. 研究の目的

上述の背景から、本研究では、前近代 (= 近世) の日朝関係において、朝鮮から対馬(藩)に派遣されていた「訳官使」という使節について、

訳官使に関わる各種規定類(外交文書の書式・儀礼(服装含む)など)の分析

訳官使の派遣・接遇からどのような対馬 - 朝鮮関係が見えてくるのかの検討

を通じて、対馬と朝鮮との関係性を明らかにし、前近代の日朝関係の内実をより明確に描き出すことを目的として研究を進めた。

### 3. 研究の方法

上記の目的を果たすため、本研究がとる基本的な研究方法は文献史料の収集・読解・分析となる。本研究の基本史料である「訳官記録」を中心とした対馬宗家文書(長崎県立対馬歴史民俗資料館・大韓民国国史編纂委員会が中心)に収録されている文書を調査収集、読解・分析した。なお、平成 29 年度より当初 2 カ年の予定で対馬歴史民俗資料館が整備のための一時休館となったため、本来の最終年度を 1 年延長して臨んだが、一時休館が延びたため対馬歴史民俗資料館での調査は不十分のままでは終わるを得なかった。他方で、その分国史編纂委員会での調査に注力した。

### 4. 研究成果

上記の通り、対馬歴史民俗資料館での調査は不十分となったが、「訳官記録」は主に国史編纂委員会が所蔵しており、本研究補助事業期間内で「訳官記録」(マイクロフィルムで 100 巻超)の調査収集をほぼ終えることができた。史料数が膨大なため引き続きの読解・分析や追加史料調査は欠かせないが、現段階では以下の点を明らかにすることができた。

#### (1) 訳官使に関わる規定について

「訳官記録」の中の『訳官定例』ならびに各種書付・覚書類に基づき、対馬で訳官使を接遇する際の動員体制、藩からの指示、藩や訳官使からの手当・給付内容について明らかにした。訳官使接遇時には、藩士・町民あわせて最低でも 130 人前後が動員され、動員された者は藩に誓旨血判を提出、訳官使一行との間でトラブルを起こさないことなどの指示を受けて従事したが、これが実は文字通り「命懸け」の任務だったことがわかった。その反面、動員された者には事前・事後に手当・「音物」が給付されてもいた。対馬藩にとっては、一大イベントであった。

また、規定に関しては宝永年間(1704~1711)が画期となりうるところまでは確認できた。

#### (2) 訳官使接遇儀礼の一端について

研究開始当初、接遇儀礼は大きなテーマであったが、研究期間中に池内敏氏の『絶海の碩学』が刊行されたことで若干の方向修正を行った。非常に些細な視点であるが、接遇儀礼の五大事である「茶礼」「中宴席」「萬松院宴席」「以酌庵宴席」「出宴席」の名称変遷や接遇行事の変遷(それぞれ言い換えれば、行事としての定例化過程とも考えられる)を明らかにし、延宝年間(1673~1681)に画期があったことを確認した。

#### (3) 訳官使接遇から窺える対馬 - 朝鮮関係

一般に近世の日朝関係は「交隣」関係であり、対等であるといわれてきた。他方、朝鮮側の観点から考えたとき「交隣」関係には対等を前提とする「敵礼交隣」と、上下関係となる「羈縻交隣」の二種あることが指摘されている(関德基『前近代東アジアのなかの韓日関係』校倉書房、孫承喆『近世の朝鮮と日本』明石書店)。この点、対馬では日本と朝鮮は対等な「交隣」であるという建前のもと、それでも実際は日本が 6、朝鮮が 4 の差があるという認識を示していた。

#### (4) 今後の課題

先述の通り、対馬宗家文書における「訳官記録」はそれだけでも膨大な史料群であるため、本研究で明らかにできたのはその一端に過ぎない。引き続き 1 つ 1 つの史実の確定作業が必要となる。それらの作業を踏まえた上で、「訳官使」というものの全体像の把握が求められる。そのためには、「訳官記録」だけでは不十分であり、対馬宗家文庫の他の史料群（例えば毎日記など）や朝鮮側の史料を用い、多角的に検証していくことが今後の課題である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名<br>石田徹                                   | 4. 巻<br>1             |
| 2. 論文標題<br>中高歴史教科書における「朝鮮通信使」表記と「信=よしみ」説について    | 5. 発行年<br>2020年       |
| 3. 雑誌名<br>訳官使・通信使とその周辺                          | 6. 最初と最後の頁<br>3-49    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>石田徹                                   | 4. 巻<br>152           |
| 2. 論文標題<br>対馬藩における訳官使接遇の諸様相                     | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>歴史の理論と教育                              | 6. 最初と最後の頁<br>3-17    |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>石田徹                                   | 4. 巻<br>1             |
| 2. 論文標題<br>近世対馬における日朝関係認識：「隣交」を手がかりに            | 5. 発行年<br>2019年       |
| 3. 雑誌名<br>「16-19世紀東アジア国際秩序の成立と変容の研究」国際シンポジウム報告書 | 6. 最初と最後の頁<br>234-249 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-             |
| 1. 著者名<br>石田徹                                   | 4. 巻<br>76-4          |
| 2. 論文標題<br>書評：池内敏著『絶海の碩学 近世日朝外交史研究』             | 5. 発行年<br>2018年       |
| 3. 雑誌名<br>東洋史研究                                 | 6. 最初と最後の頁<br>176-190 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし                   | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難          | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 4件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>石田徹   |
| 2. 発表標題<br>外交儀礼の観点から見る近世対馬・朝鮮間における「交隣」の実態  |
| 3. 学会等名<br>2017年度サントリー文化財団「人文科学、社会科学に関する学際的グループ研究助成」：東アジア世界における朝鮮の「交隣」 歴史的展開と現代的意味（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>石田徹   |
| 2. 発表標題<br>対馬藩における訳官使接遇の諸様相  |
| 3. 学会等名<br>「16-19世紀東アジア国際秩序の成立と変容」シンポジウム1：訳官使・通信使とその周辺（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>石田徹  |
| 2. 発表標題<br>近世対馬における日朝関係認識：「隣交」を手がかりに                                    |
| 3. 学会等名<br>「16-19世紀東アジア国際秩序の成立と変容」シンポジウム3：日本・朝鮮・中国三国比較という視点（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2018年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>石田徹                               |
| 2. 発表標題<br>中高歴史教科書における「朝鮮通信使」表記と「信=よしみ」論について |
| 3. 学会等名<br>近世史研究会（名古屋大学）・「訳官使・通信使とその周辺」研究会   |
| 4. 発表年<br>2019年                              |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>石田 徹                                 |
| 2. 発表標題<br>朝鮮「通信」使の「信」について                      |
| 3. 学会等名<br>東アジア文化間の対話 朝鮮通信使学術シンポジウム（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2019年                                 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)    | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号) | 備考 |
|-------|------------------------------|-----------------------|----|
| 研究協力者 | 古川 祐貴<br><br>(Furukawa Yuki) |                       |    |